岩盤ボーリング柱状図

調　　査　　名　畠敷地区　急傾斜地崩壊対策事業に伴う業務委託（交付金）

事　業　・　工　事　名

調査目的及び調査対象　その他　構造物基礎

ボーリング名	R2B-7	調査位置	広島県三次市畠敷町	北緯	34° 48′ 52.2185″
発注機関	広島県北部建設事務所	調査期間	令和2年12月 3日～ 令和2年12月 5日	東経	132° 52′ 37.4425″
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 166.93m	角度	180°（上）～ 90° ～ 0°（下）	方向	北 0°、90°東、180°南、270°西
総削孔長	6.00m	地盤勾配	水平 0°、鉛直 90°	使用機種	試錐機：東邦DO型 / エンジン：ヤンマーTF120M / ポンプ：東邦製BG-3

標尺（m）	標高（m）	深度（m）	工学的地質区分名（模様）	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分	コア採取率（%）／最大コア長（cm）／RQD（%）	記事	孔内水位／測定月日
1	165.93	1.00		礫混じり砂	茶							[100]	細～中砂主体。φ2～30mmの角礫を混入する。最大礫はφ70mmである。GL-0.8mまで植物根を混入する。	12/4 無し
2				礫混じりシルト質砂	茶							[100]	細～中佐主体。全体的に最大φ50mmの火山岩角礫を混入する。GL-2.8～3.0m間は砂分が増加する。GL-2.0mのケース掘進から全漏水する。	
3	163.33	3.60										[100]		12/5 3.60
4				砂岩	褐灰	w4	h2	E	Ⅷ	d	D	[18][29][100]	深度方向へ硬質化する砂岩である。GL-3.6～4.0m間は細粒の砂岩で，概ね水平の層理面がみられる。軟質で，指圧で容易に変形し土砂状を呈する。GL-4.0m以深は中～粗粒の砂岩で，岩片状～短柱状コアとして採取される。GL-4.3m，5.0m付近にφ20mmの火山岩角礫を混入する。GL-5.08～5.21m間は暗灰色である。	
5						w3		C	Ⅲ	c	D	[15][67][100]		
6	160.93	6.00								b	CL			
7														
8														
9														
10														
11														

標準貫入試験

N値	深度	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
15	1.15	15		
	1.45	300		
12	2.15	12		
	2.45	300		
20	3.15	20		
	3.45	300		
50以上	4.15	50	90	
	4.24	90		
50以上	5.05	50	30	
	5.08	30		
50以上	6.00	50	20	
	6.02	20		

深度－N値図

原位置試験　室内試験

削孔月日	削孔速度（cm/h）	孔径・孔壁保護	コアチューブ・ビット	給圧（MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	削水・送水量（L/min）	排水量（L/min）
12/3	14	66/ケーシング	打込み/打込みシュー	0	0	0	W1/0	0
	50							
12/4			ダブル/ダイヤ	25	200	0	W2/5	0
12/5	21		ダブル/ダイヤ	50	200			